平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

ふりがな 学校名	むこうしりつだいごこうようしょうがっこう 向日市立第５向陽小学校

校 長 名：田中　久美子
所 在 地：京都府向日市上植野町五ノ坪１
電話番号：075-921-0001

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	総合的な学習の時間

≪研究主題≫

主体的に学び，豊かな心をもつ児童の育成を目指して　～学び合いを通して，自分の考えを自分の言葉で表現する力を高める～

【研究の要点】

本校では，平成16年度から「国語力向上」をテーマに研究を積み重ね，平成19・20年度には，日本新聞教育財団「NIE実践校」として，新聞を教材とした言語力の育成に取り組んできた。校区には，田畑や福祉施設，市民体育館や市民プールなどがあり，地域は学校教育に協力的である。児童は，活発であり，与えられた課題にはまじめに取り組むことができるが，主体性に欠ける面があり，自然体験や社会体験が乏しく，身近な人々や社会，自然への関心も低い。

そこで，これまでの研究経過や児童，地域の実態を踏まえ，総合的な学習の時間を中心に，体験活動と言語活動を充実させていくことで「主体的に学ぶ力」「ことばの力（言語力）」を育成することをねらいとし，上記のような研究主題を設定した。

（1）研究の重点

①地域教材を活用し，体験学習を重視した総合的な学習の時間教育課程の充実

②国語科・総合的な学習の時間を柱とした「ことばの力（言語力）」の育成

③学習の基盤としての「ことばの力（言語力）」を培う取組

それぞれの，研究の重点に対する取組の概要は次の通りである。

①全体計画（資料1），年間指導計画（資料2），単元指導計画を見直し，全学年「主な学習対象」を地域教材とした教育課程を作成し，授業研究を通して検証を重ねた。

また，総合的な学習の時間で育てたい力を3つの視点で5つの力に整理した。まず，学習方法に関することとして「課題を設定する力」「課題を追究する力」「表現する力」，次に，自分自身に関することとして「生活に生かす力」，最後に，他者や社会とのかかわりに関することとして「学び合う力」と設定し，中学年から高学年へ向けて系統的に育てられるように，一覧表を作成した。

②国語科で身に付けた知識・技能をもとに総合的な学習の時間を中心に，体験活動と言語活動を充実させた授業づくりに取り組んだ。学習指導案や単元指導計画に言語活動を位置付け，グループ学習や異学年・地域とかかわる学習など，学び合う学習を取り入れるようにした。

③すべての学習の基盤となる「ことばの力（言語力）」を日常的に培えるように，校内全体と全教室の環境整備に取り組んだ。また，毎週水曜日には「わくわくことば（言葉の特徴やきまりを中心とした朝学習）」，毎週月曜日には「NIEタイム（新聞記事のスクラップを活用した朝学習に取り組み，年間通して「ことばの力（言語力）」を培えるようにした。

（2）研究の成果と課題

総合的な学習の時間を充実させることで，児童が意欲的，主体的に学習に取り組むようになってきた。そして，地域教材をもとにした体験学習を重視することにより，地域に関心をもつ児童が増えた。また，国語科・総合的な学習の時間を柱とした「ことばの力（言語力）」の育成に取り組むことで，「書く力」「話す力」の表現力が向上してきた。特に「書く力」においては，文章表現力実態調査を行ったところ，文章量が増え，体験したことを具体的に表現できる児童が増えてきた。

今後の課題は，この2年間で取り組んだ単元についての資料（単元指導計画や学習指導案，ワークシート，地域教材・人材のリスト等）を次年度以降へ引き継いでいくとともに，児童の学びを見取り，授業づくりや評価に生かせるようにして，総合的な学習の時間を更に充実させていくことである。また，国語科と総合的な学習の時間を関連・融合させながら，児童の言語活動を充実させた授業づくりを進めることで，更に「ことばの力（言語力）」を高めていくようにしていきたい。

Ⅰ　研究指定校の概要

1　学校・地域の特色及び実態

本校は，全校生徒700名程の向日市で一番大きい規模の学校である。校区には，田畑や福祉施設，市民体育館や市民プールなどがあり，地域は，学校教育に協力的である。

児童は，活発であり，与えられた課題にはまじめに取り組むことができる。しかし，主体性に欠ける面があり，自然体験や社会体験が乏しく，身近な人々や社会，自然への関心も低い。

2　学校の概要（平成22年4月5日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	3	3	3	3	4	4	2	22
児童数	113	111	94	108	138	120	15	699

教員数　　30名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

1　研究主題等

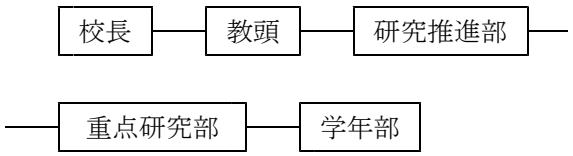
(1) 研究主題

主体的に学び，豊かな心をもつ児童の育成を目指して　～学び合いを通して，自分の考えを自分の言葉で表現する力を高める～

(2) 研究主題設定の理由

本校では，平成16年度から「国語力向上」をテーマに研究を積み重ね，平成19・20年度には，日本新聞教育財団「ＮＩＥ実践校」として，新聞を教材とした言語力の育成に取り組んできた。そこで，これまでの研究経過や児童，地域の実態を踏まえ，総合的な学習の時間を中心に，体験活動と言語活動を充実させていくことで「主体的に学ぶ力」「ことばの力（言語力)」を育成することをねらいとし，上記のような研究主題を設定した。

(3) 取組体制



(4) ２年間の主な取組

平成21年度	方針，年間計画の確認 全体計画，年間指導計画，単元指導計画の見直し １年授業研究 ４年授業研究と校内研修【文部科学省田村調査官】 校内研修　【ＮＩＥアドバイザー】 ２年授業研究と校内研修【京都教育大学植山教授】 ５年授業研究 中間研究発表会（３・６年公開授業と研究発表） 【関西大学黒上教授】 総括と次年度方針の確認
平成22年度	全体計画，年間指導計画，単元指導計画の見直し ２年授業研究 ６年授業研究と校内研修【関西大学黒上教授】 ６年授業研究と校内研修【文部科学省田村調査官】 研究発表会 （３・５年公開授業と事後協議会，研究発表） 【関西大学黒上教授】 １年研究授業 ４年研究授業と校内研修【関西大学黒上教授】 研究のまとめ，教育課程の完成

2　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

① 地域教材を活用し，体験学習を重視した総合的な学習の時間の教育課程の充実

② 国語科・総合的な学習の時間を柱とした「ことばの力（言語力)」の育成

③ 学習の基盤としての「ことばの力（言語力)」を培う取組

(2) 具体的な取組

① 全体計画（資料１），年間指導計画（資

料２），単元指導計画（資料３）を見直し，全学年，「主な学習対象」を地域教材とした教育課程を作成し，授業研究を通して検証を重ねた。

また，総合的な学習の時間で育てたい力を３つの視点で５つの力に整理した。学習方法に関することとして「課題を設定する力」「課題を追究する力」「表現する力」，自分自身に関することとして「生活に生かす力」，他者や社会とのかかわりに関することとして「学び合う力」と設定し，中学年から高学年へ向けて系統的に育てられるように，一覧表を作成した。

＜６年生の実践例＞（資料３）

６年生では，１学期から「地域歴史探究～呼び覚ませ，土地の記憶！～」として地域の歴史をテーマに学習を進めてきた。その単元では，向日市埋蔵文化財センター，向日市文化資料館，向日市立図書館，上植野農家組合等地域の方々の協力で，「地域歴史講座」「史跡オリエンテーリング」「ぶらり５向地域歩き」を実施した。そこでは，地域教材や地域人材を活用することで児童に興味を持たせ，課題を設定していくようにした。この実践では，以下の３つの点に配慮した。

【地域の方からの説明】

『探究テーマのたね（課題）の質を高める工夫』

各自が見つけた課題を，「おもしろそう度」「実現できそう度」「やる価値あり度」の３つの視点で検討し，課題を設定した。

【探究のたねカード】

『子どもの見取りと評価』

座席表を活用し，子ども一人一人の学びを見取るとともに，学習場面ごとに評価規準表の５つの力で評価した。

『生き方へ生かす取組』

探究したことを自己の生き方へとつなげるため，「世界遺産」にちなみ「地域遺産」として登録することにした。各自がまとめたものをもとに「地域遺産登録会議」を行い，「地域遺産登録証」を授与することとした。

＜４年生の実践例＞

４年生では，１学期に「洛西浄化センター」の見学をもとに，「生活の水」について学習を進めた。そして，２学期は校区を流れる農業用水である小井川・和井川について調査した。調査の結果，昔この地域では農業に使う水を巡る争いがあり，水は大切なものであったことに気付き，１学期の学習とつなげて，水を守る方法について話し合った。

【水について調べる児童】【農業用水の調査】

② 国語科で身に付けた知識・技能をもとに総合的な学習の時間を中心に，体験活動と言語活動を充実させた授業づくりに取り組んだ。学習指導案や単元指導計画に言語活動を位置付け，グループ学習や異学年・地域とかかわる学習など，学び合う学習を取り入れるようにした。

＜５年生の実践例＞

５年生では，「食」をテーマに学習を進

めた。今年度は，農家の事情で例年取り組んでいた「米作り」ではなく，「サツマイモ作り」の体験を行った。しかし，「米作りを体験したい」という児童の思いもあったため，校内に小さな田んぼを作り，「米作り体験」も行った。

【校内で田植え体験】【農家の方とイモ掘り】

それらの豊かな体験をもとに，日本の食糧生産の問題について考えを深めた。国語科「賛成？それとも反対？（討論会)」の単元で討論会という話し合いの方法を学習したことを生かし，「日本の食糧をより確かなものにするために」というテーマで討論を行い,各自が考えたことを深め合った。そして，農林水産省のホームページ「FOOD ACTION NIPPON」にならって，「フードアクション・５向」として，自分の考えを書きまとめた。

＜３年生の実践例＞

３年生では，２学期に「地域の自然」をテーマに探究活動を進めた。「フィールドビンゴ」「あいうえウォッチング」「自然のお便りカード」を用いて地域の自然を探し，興味を持ったことについて，更に詳しく調べていった。そして，「どこにどんな自然があるのか」「見つけた自然でどんな楽しみ方があるのか」などを，生活科で学習している２年生に伝えるようにした。２年生という相手意識を持たせ，実物や絵・写真を見せる，体験タイムをとる等自然の楽しさが伝わる工夫をすること，分かりやすい言葉で話すことを考えて発表会を行った。

【校区自然ウォッチング】【２年生への発表会】

③　すべての学習の基盤となる「ことばの力（言語力)」を日常的に培えるように，校内全体と全教室の環境整備に取り組んだ。校内全体には，階段や渡り廊下などに「故事成語」「いろは歌タッチ」「百人一首の世界」等の掲示をし，各教室には，「上手な話し方・聞き方」「感想の言葉一覧」等の掲示をした。そして，新聞を身近なものとするため，「ＮＩＥコーナー（新聞閲覧コーナー)」と「ＮＩＥ掲示板（話題の新聞記事の掲示)」を設置し，授業等でも活用できるようにした。

【言葉に親しむ児童とＮＩＥコーナー】

また，毎週水曜日には，「わくわくことば（言葉の特徴やきまりを中心とした朝学習)」，毎週月曜日には，「ＮＩＥタイム（新聞記事のスクラップを活用した朝学習)」に取り組み，年間通して「ことばの力（言語力)」を培えるようにした。

(3) 考察及び成果と課題

①　地域教材・地域人材による直接体験を重視することにより，児童が意欲的，主体的に学習に取り組むことができ，地域に関心を持つ児童も増えた。そして，課題設定を工夫することで，見通しをもって探究活動に取り組むことができた。

しかし，探究したことをまとめる際，表現方法や内容が多様になったため，学級全体として学習の深まりがやや不十分であった。一人一人が探究したことについての整理・分析をして課題を絞り込む，統一した表現方法でまとめる等の工夫が必要である。また，座席表や評価規準表を利用することで，教師が児童を評価する視点は明確になってきたが，ポートフォリオやルーブリック等を活用し，児童自身が付けたい力を意識しながら学習を進めていく工夫が必要である。

② 国語科で身に付けた知識・技能をもとに総合的な学習の時間で言語活動を充実させることで，児童の思考力や表現力が高まった。今後，集めた情報を言語によって整理・分析する活動を充実させることで，更に思考力・判断力・表現力を育てていくことが必要である。

③ 言語環境を整備することにより，伝統的な言語文化にも興味を持つ児童が増えてきた。ＮＩＥの取組により，社会の出来事に関心をもつ児童が増えた。「わくわくことば」と「ＮＩＥタイム」に年間通して取り組むことで，言語力の基礎を培うことができたが，今後は教科・領域等の学習内容と合わせて計画的に進めていく必要がある。

また，言語環境の整備では，掲示物を定期的に貼り替えたり，遊び感覚で取り組めるものを掲示したりして，児童の関心が高まるものにしていくことが大切である。

３ 研究の成果と課題

総合的な学習の時間を充実させることで，児童が意欲的，主体的に学習に取り組むようになってきた。

＜本校６年生児童質問紙＞
「総合的な学習の時間の勉強は好きだ」
平成20年４月58.8%→平成22年４月71.8%
「総合的な学習の時間の時間では，新しいことが発見できる」
平成20年４月61.0%→平成22年４月78.6%

地域教材をもとにした体験学習を重視することにより,地域に関心をもつ児童が増えた。

＜本校６年生児童質問紙＞
「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」
平成20年４月45.8%→平成22年４月71.8%

また，国語科・総合的な学習の時間を柱とした「ことばの力（言語力)」の育成に取り組むことで,「書く力」「話す力」の表現力が向上してきた。特に「書く力」においては，文章表現力実態調査を行ったところ，文章量が増え，体験したことを具体的に表現できる児童が増えてきた。

今後の課題は，この２年間で取り組んだ単元についての資料（単元指導計画や学習指導案，ワークシート，地域教材・人材のリスト等)を次年度以降へ引き継いでいくとともに，児童の学びを見取り，授業づくりや評価に生かせるようにして，総合的な学習の時間を更に充実させていくことである。

また，国語科と総合的な学習の時間を関連させながら，児童の言語活動を充実させた授業づくりを進めることで，更に「ことばの力（言語力)」を高めていくようにしていきたい。

資料１

「総合的な学習の時間」全体計画

向日市立第５向陽小学校

＜児童の実態＞
・明るく元気である。
・まじめに取り組むが、主体性に欠ける。
・外遊びや自然とのふれあい体験が少ない。
・思考力・判断力・表現力が弱い。
＜地域の実態＞
・校区に田畑や福祉施設、市民体育館や市民プールなどがある。
・学校教育に協力的である。
・教育に対する期待が大きい。

＜保護者・地域・教職員の願い＞
・基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成
・コミュニケーション能力の育成
・地域とかかわる学習内容と体験的な学習の重視
・一つの課題に対する継続的な取組

＜教育目標＞『生き生き　はつらつ　命がかがやく学校』

＜めざす児童像＞
○ 自ら学び、よく考える子
○ 健康・安全に努め、体を鍛える子
○ 他を思いやり、豊かな心をもつ子

憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
府・市の指導の重点

＜５向小「総合的な学習の時間」の目標＞
身のまわりの事象に興味・関心をもち、自分とのかかわりの中から問題意識をもち、探求的な学習や体験的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付け、そこにある問題を主体的に見いだし、他者と協力して問題を解決するとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

＜総合的な学習の時間の目標＞
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

＜育てようとする資質や能力及び態度＞
○学習方法に関すること
【課題を設定する力】【課題を追究する力】【表現する力】
・課題を見つけ、設定する　・情報を収集し、課題を追求する
・相手や目的に応じて表現する
○自分自身に関すること
【生活に生かす力】
・学んだことを生活に生かす　・自己の将来を考え、夢や希望をもつ
○他者や社会とのかかわりに関すること
【学び合う力】
・異なる意見や他者の考えを受け入れる　・他者と協同して課題を解決する

＜５向小「総合的な学習の時間」の内容＞

＜３年＞
【主な学習対象】～地域～
①地域の施設、商店、農業とそこで働く人々や地域の自然
②地域の昔のくらしのようすと伝統を継承する人々
【主な学習事項】
①・市民体育館、市民プール、福祉施設、公民館、スーパーマーケット、商店、農業の見学
・地域で働く人々の思いや願い
・自然探検、自然調べ
・地域のよさを発信する活動や取組
②・昔の家、道具、食べ物調査
・昔の校区調べ
・伝統を継承する人々の思いや願い
・地域のよさを発信する活動や取組

＜４年＞
【主な学習対象】～地域・環境～
①地域のゴミ処理場、浄水場、農業用水とそこで働く人々
②地域の伝統産業の店と伝統を継承する人々
【主な学習事項】
①・ゴミ処理場、浄水場、農業用水の見学
・働く人々の思いや願い
・ゴミを減らすため、きれいな水を守るためにできることの計画と取組
②・銘竹店の見学
・「洛西の竹」に対する人々の思いや願い
・地域のよさを発信する活動や取組

＜５年＞
【主な学習対象】～健康・福祉～
①米づくり、野菜づくりとそれに関わる人々
②地域の福祉施設と障害のある人やお年寄りの思いや願い
【主な学習事項】
①・米づくり、野菜づくりの体験
・日本の食料調べ
・「食」に対する自分の考えの交流と発信
②・ひまわり園、向陽苑の交流訪問
・地域の福祉施設調べ
・障害のある人やお年寄りの生活と思いや願い
・自分たちにできることの計画と取組

＜６年＞
【主な学習対象】～歴史・生き方～
①向日市、京都市、奈良市の歴史的文化遺産
②働く人々と仕事に対する思いや願い
【主な学習事項】
①・向日市、京都市、奈良市の歴史調べ
・向日市、京都市、奈良市の歴史探検
・自分たちの住むまちのよさを発信する活動や取組
②・働く人々への取材活動
・仕事に対する思いや願い
・将来の夢や自分の生き方

＜各教科等との関連（３年）＞
国語「インタビューの計画」
「お礼のはがきを書こう」
社会「わたしのまちはどんなまち」
「くらしをささえるまちではたらく人びと」
「昔のくらし、見つけた」
理科「チョウを育てよう」
「こん虫をさがそう」

＜各教科等との関連（４年）＞
国語「学級しょうかい」
社会「くらしとごみ」
「くらしをささえる水」
「地域のはってんにつくした人々」
「わたしたちの府の自然や産業と人々のくらし」
理科「水のすがた」

＜各教科等との関連（５年）＞
国語「賛成？それとも反対？」
社会「わたしたちの食生活と食料生産」
「わたしたちのくらしをささえる情報」
理科「植物の発芽と成長」
「花から実へ」
家庭「１日の食事を調べよう」
「卵や野菜を調理しよう」

＜各教科等との関連（６年）＞
国語「新聞の研究」
「外国の人と理解し合うために」
「二十一世紀に生きる君たちへ」
社会「貴族の政治とくらし」
「武士による政治のはじまり」
「江戸幕府の政治と人々のくらし」

＜学習活動＞
・学年合同で学習活動を進める。
・地域の特色を生かした学習対象を設定する。（地域の施設や商店や農業、ひまわり園や向陽苑などの福祉施設、長岡京や京都の歴史など）
・学年の発達段階に応じた学習内容を設定し、問題解決を行う。（３年生「地域」、４年生「地域・環境」、５年生「健康・福祉」、６年生「歴史・生き方」）
・上記を主なテーマとし、児童の実態や興味・関心に応じて学年で単元を開発して行う。
・年間２～３単元の大単元構成とし、学習対象に繰り返しかかわり探究活動ができる時間を保証する。
・新聞を効果的に活用する。

＜指導方法＞
・内容に迫るため、意図的に身近な地域の施設や文化、人とかかわる体験の場を設定し、児童の追究したい課題を設定させる。
・学び方を身に付けるため、繰り返し学習ができるようにする。
・「ことばの力」を育成するため、プレゼンテーションや「書くこと」に取り組ませる。
・新聞記事の活用、新聞づくり等、新聞を教材として効果的に取り入れる。

＜学習の評価＞
・単元ごとに「育てようとする資質や能力及び態度」（５つの力）の評価規準を設定し、担任が評価を行う。
・評価規準を基に、発言やワークシート、まとめの作文や新聞等から、評価を行う。
・学校評価のアンケートや全国学力・学習状況調査の質問紙等で評価する。

＜指導体制＞
・必要に応じてティーム・ティーチングで指導する。（担任外の教職員による支援体制の樹立）
・地域の人や保護者との協力体制を充実させる。（学習にかかわる講師、専門家、校外でのグループ学習における補助員等）
・総合コーディネーター（総合的な学習の時間担当）を設置し、同学年や異学年の教師が協同で計画や指導に当たる。

資料２

第６学年　「総合的な学習の時間」年間指導計画

向日市立第５向陽小学校

	４月	５月	６月	７月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
「ことばの力」	○国語科「視野の広がりを」 自分の意見と重ね合わせ、伝えたいことをはっきりさせて文章を書く。 ○「うったえたいことを話そう」 聞く人に「理解や共感を得られるような話し方」と「話の意図をくみ取りながら聞き、自分の考えの参考にできる聞き方」を身につける。 →スピーチ活動(話し合い活動)やプレゼンテーションで育成する。 ○ＮＩＥ活動 新聞記事から５Ｗ１Ｈを抜き出し、要約する。				○国語科「未来社会を考える」 相手意識・目的意識をもった「話し方・聞き方」の技能を生かしながら、互いの考えを交流して新しい考えを生み出す。 →パネルディスカッションやまとめで育成する。 ○「愛を運ぶ人　マザー＝テレサ」 マザー＝テレサの考えていた「愛」「幸せ」について、自分の周りや世界にも目を向けた視点で、自分の考えを書く。 →まとめやプレゼンテーションで育成する。				○国語科「語りにちょう戦しよう」 楽しんで聞いてもらえるような構成や表現を工夫して語りを作りあげ、発表する。		
「総合的な学習の時間」単元計画	**「地域歴史探究　～呼び覚ませ、土地の記憶～」(30h)** ○地域の歴史について知ろう。(１５h) ・地域歴史講座ⅠⅡⅢ 「狩りの生活から米づくりの生活へ」 「幻の都　長岡京」「上野城について」 ・地域歴史探訪 「史跡オリエンテーリング」「向日市文化資料館見学」 ・ぶらり５向地域歩き 「水」「道」「石」の歴史をたどる。 教科関連 社会「日本のあゆみ」 ○探究テーマを決めよう。(２h) ・探究テーマを出し合う。 ・自分の探究テーマを決める。 教科関連 国語「新聞の研究」 ○探究テーマについて情報を収集・整理しよう。(４h) ・フィールドワーク、アドバイザーの話、インターネット等から情報を集め、必要な情報を整理する。 ○探究したことをテーマに合う方法でまとめよう。(６h) ・テーマに合う方法でまとめる。 「実物づくり」「模型づくり」「マップづくり」「新聞（模造紙や画用紙）」 ○地域の歴史を発信しよう。（３h） ・保護者へ発表する。 ・地域遺産登録会議を行う。 ・地域へ出向き、発表する。				**「京都歴史探究　～京都観光大使になろう～」(15h)** ○京都の歴史的文化遺産について課題をもとう。(４h) ・京都に残る歴史文化遺産について事前学習をし、課題を決める。 ・調査・見学の計画を具体的に立てる。 ○京都の歴史的文化財について調査しよう（４h） ・グループごとに京都の歴史を調べ、情報を集める。 ○体験したことを、随筆風体験記、パンフレットなどにまとめよう。（７h） ・体験で学んだことをカード（描写・説明・気持ち）にまとめ、体験記にまとめる。 ・パソコンを使い、パンフレットをつくる。 ・まとめたことを発信する。 教科関連 社会「日本のあゆみ」 **「自分の将来や生き方について考えよう」(10h)** ○自分の「幸せ」について考えよう。（３h） ・スクラップした記事を５Ｗ１Ｈに整理する。 ・記事に対する自身の感想をまとめる。 ・「幸せ」に関する記事を紹介し合う。 ○「幸せ」について交流しよう。（３h） ・新聞スクラップを通して、「幸せ」について考え、まとめる。 ・グループで「幸せ」について交流する。 ○新聞から人物を見つけ、交流しよう。（４h） ・スクラップした記事を５Ｗ１Ｈに整理する。 ・記事に対する自身の感想をまとめる。 ・「人物」記事を紹介し合う。 ・「人物」の尊敬するところ・すごいと思うところ・見習いたいところなどについて交流し合う。 教科関連 国語「愛を運ぶ人　マザー＝テレサ」 「伝記から生き方を見つめよう」				**「自分の将来や生き方について考えよう」(20h)** ○自分自身を振り返ろう。(６h) ・グループで「自分新聞」の交流をし、自分自身を振り返る。 ・「自分史」を振り返る中で、自分にかかわってくれた身近な人に着目する。 ・生き方に迫りたい人物（課題）を決める。 ○人物の生き方や考え方について調べよう。（８h） ・生き方に迫りたい人物調べをする。 ・調べた人物を通して、自分の生き方について考える。 ・自分の考えをまとめる。 ・ポスターセッションをする。 ○これからの自分について考える。（６h） ・将来の自分像を考える。 ・自分像に近づくための具体的な手立てを考える。 ・夢をかなえた人の話を聞く。 教科関連 国語「二十一世紀を生きる君たちへ」 道徳「神父さまはマスクマン」 「あこがれのパティシエ」		
ＮＩＥ	○ＮＩＥタイムの新聞記事要約 新聞記事から５Ｗ１Ｈを抜き出し、記事の要点をまとめる。 ○国語「新聞の研究」 新聞の紙面から研究したいことを決め、整理分析し、意図が明確に伝わるように、事実と考えを区別して報告文にまとめる。 ○歴史に関する記事の紹介 「遺跡」「遺跡出土品」「土器」の記事など				○ＮＩＥタイムの新聞記事要約 新聞記事から５Ｗ１Ｈを抜き出し、記事の要点をまとめる。 ○歴史に関する記事の紹介 「遺跡」「遺跡出土品」「土器」の記事など ○「自分の将来や生き方について考えよう」 「幸せ」に関する記事スクラップ、スクラップ新聞、など				○「自分の将来の生き方について考えよう」 新聞に取り上げられている人物の生き方を通して、自身の生き方について考える。 ○「自分新聞」 自分の生い立ちを新聞にまとめる。		

資料３

第６学年　総合的な学習の時間　単元指導計画

向日市立第５向陽小学校

単元名　**「地域歴史探究　～呼び覚ませ、土地の記憶！～」**

＜単元の目標＞

地域の人の話を聞いたり、実際に歩いたりして探究する学習を通して、学び方やものの見方を身に付けるとともに、自分たちが今住んでいる地域について知り、地域から学んだことを“地域遺産”として発信する活動に取り組むことで、地域に愛着をもつ児童を育てる。

＜育てたい資質や能力及び態度＞

○地域の歴史に興味や関心を抱き、探究テーマを設定することができる。【①課題を設定する力】
○設定した課題について、今までに学習してきた資料を生かしながら、見通しをもって課題を追究することができる。【②課題を追究する力】
○追究し、まとめ、結論づけられた内容を、聞く相手を意識しながら説明することができる。【③表現する力】
○地域から学んだことを“地域遺産”という形で、地域の人に発信することができる。【④生活に生かす力】
○友達の気付きや友達の考え方、まとめ方などを交流することで、今までになかった新たな視点や解決法を見つけることができる。【⑤学び合う力】

＜単元計画＞　～全３０時間～

月	次	主な学習活動	評価規準	他教科・外部等
4月 5月	第一次	<u>地域の歴史に興味をもとう　（１５ｈ）</u> ・「地域歴史講座」から向日市の歴史を学ぶ。（４ｈ） ・「史跡オリエンテーリング」で向日市の史跡を見学する。（５ｈ） ・「ぶらり５向地域歩き」で校区の「石」「水」「道」を見てまわる。（６ｈ） 教材との出会い	・さまざまな体験を通して、探究テーマとなる疑問などを考えることができる。【①】〈観察・ワークシート〉	社会科 「貴族の政治とくらし」「武士による政治のはじまり」「江戸幕府の政治と人々のくらし」 向日市埋蔵文化財センター 向日市文化資料館
6月	第二次	<u>探究テーマを決めよう　（２ｈ）</u> ・「探究のたね」を出し合う。（0.5ｈ） ・自分の探究テーマを選ぶ。（0.5ｈ） ・探究方法について考え、見通しをもつ。（１ｈ） 課題の設定	・探究テーマの交流した後、ワークシートに自分の選んだ探究テーマを設定することができる。【①⑤】〈観察・ワークシート〉 ・探究活動の方法を理解することができる。【②】〈観察・ワークシート〉	
7月	第三次	<u>自分の探究テーマについて調べよう　（４ｈ）</u> ・設定した探究テーマについて、今までに書きためたワークシートや集められた画像、アドバイザーの話などから必要な情報を収集し、関連付けするなどの整理を行う。（４ｈ） 情報の収集　整理・分析	・設定した探究テーマについての情報をワークシートに収集・整理することができる。【②】〈観察・ワークシート〉	向日市埋蔵文化財センター 向日市文化資料館 元PTA会長 上植野区農家組合 地域に住んでいる方
8・9月	第四次	<u>探究したことをまとめよう　（６ｈ）</u> ・伝える相手を意識しながら、探究テーマに合う方法でまとめる。（６ｈ） (例) 「実物づくり」「模型づくり」「マップづくり」「模造紙や画用紙」 まとめ・表現	・探究テーマについて収集・整理された情報をもとに、分かりやすくまとめることができる。【③】〈まとめたもの〉	
10月	第五次	<u>探究したことを地域に広めよう　（３ｈ）</u> ・完成したものを地域遺産登録授与式やミニミュージアムという形で、保護者や地域の人に発表する。（３ｈ） 生き方へ	・学習してきた成果を分かりやすく発表することができる。【③④⑤】〈発表の観察・感想用紙〉	向日市埋蔵文化センター 上植野公民館

＜「ことばの力」を育成するための言語活動＞

第一次：見たこと、聞いたことなど体験したことをメモや文章でまとめる。
第二次：探究してみたいことを「探究のたねカード」にまとめ、課題の質を高めるためにグループで話し合う。
第三次：フィールドワーク、インタビュー、図書、インターネットなどで集めた情報をメモやワークシートに言語化する。
第四次：調べたことを自分の探究テーマに合った方法で表現する。
第五次：学習してきた成果を保護者や地域の方へ分かりやすく発表する。

平成 22 年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名	和歌山市立有功東小学校

校長名 ： 小 松 龍 三

所在地 ： 和歌山県和歌山市六十谷895 番地

電話番号： 073-462-1322

新学習指導要領の趣旨を具体化する
ための指導方法の工夫改善に関する研究

研究対象教科等	総合的な学習の時間

≪研究主題≫

地域に根ざした体験的・探究的な学習活動を生かした指導に関する研究

【研究の要点】

- 子どもや地域に根ざした学習について，具体的な授業実践を通して多くの教材を開発する。
- 子ども主体の学習は子ども任せの学習ではなく，指導者が事前に子どもの追究や意識の流れを予想し，複線型の指導計画を準備することの大切さを共通理解する。
- 子どもの思いや願いを大切にすることについて，着目児や授業分析から教職員の理解を深める。
- 各指導者がマイカリキュラムの中で独自に考えてきた育てたい力について，学校として深める。（総合的な学習の時間の全体計画 参照）
- 書くことや板書の重要性について再確認し，取り組む。

Ⅰ 研究指定校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は，和歌山市の北東部，大阪府との境界にある和泉山脈の南斜面標高 45 メートルの地に位置する。校区は，和歌山市では他にない清流と言える千手川と和歌山の母なる川，紀ノ川，北は和泉山脈に囲まれている。学校を中心に北側には，昭和 30 年頃以降，山の斜面を開発されてできた住宅地と，学校の南側には，県道沿いの商業地域・以前からある住宅地や農地と２つに大別できる。地域の人々の教育に関する関心は高く，学校教育の充実と発展に支援をしていただいている。

平成５年度に開校され，18 年を迎える学校である。開校以来一貫して「子どもが自らの世界を拓く学習」を研究主題とし，環境学習や地域学習に取り組んできた。また，子どもの主体性や居場所を大切にし，学習環境の充実にも努め，トカラヤギ・犬・地域の水生生物等，多くの生き物を飼育している。また，開かれた学校として，多くのゲストティーチャーを招き，保護者や地域の方の参画を大切にしている。

2 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14
児童数	50	44	50	56	55	62	6	323

教員数 17 名

Ⅱ 研究の内容及び成果等

1 研究主題等

（１）研究主題

地域に根ざした体験的・探究的な学習活動を生かした指導に関する研究

（２）研究主題設定の理由

本校は，平成５年度の開校以来，一貫して「子どもが自らの世界を拓く学習」をテーマに授業実践を通して研究を続けてきている。生活科・社会科・情報教育・環境教育等の指定を受け研究を継続してきたが，基本的には学校としての研究教科は定めずに，教員各自が自己の研究教科を軸に実践を行ってきた。

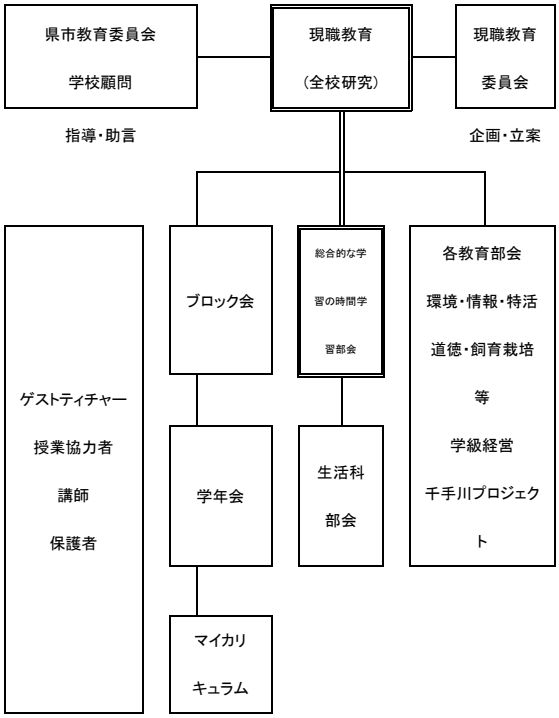
平成 17 年度から３年間の文部科学省の「総合的な学習の時間モデル事業」の指定受諾を機に，研究教科を生活科・総合的な学習の時間として子どもや地域に根ざした学習，ゲストティーチャーによる学習や体験活動を生かした学習展開を大切にしながら，各教員がマイカリキュラム（学級毎に編成するカリキュラム）に基づく研究を推進してきた。また，平成 19・20 年度文部科学省指定「豊かな体験

活動」を通して体験を軸とした学習展開についても取り組んできている。

これらの研究を発展させ，特に研究途上にある生活科や総合的な学習の時間で育てたい力「学習方法に関する力」・「かかわりに関する力」・「自分自身に関する力」を大切にしながら，体験的・探究的な学習をさらに深めたいと考え主題を設定した。

（３）取組体制

研究組織



○年度当初にマイカリキュラムの作成

○学期毎にマイカリキュラム修正

○実践者が，学校顧問(指導助言者)と単元構想等の計画(マイカリキュラムの修正)

○校外授業協力者の依頼

○実践授業の約１月前，ブロック会で事前研究

３週間前，全体会で本時についての検討

着目児童等の記録・分析計画

○指導案には，着目児童と座席表を必ず準備

○授業実践の協議は，授業記録を通して行う

○実践後，授業記録・授業検討会をもとに単元の分析，研究集録にまとめる

↓

マイカリキュラムの最終修正

実践例として次年度に

（４）２年間の主な取組

平成21年度	・和歌山市教育委員会要請訪問　6月 ・共同研究校（和歌山大学附属小学校）との共同研究及び他校の教員を交えた研究 ・和歌山県教育委員会指導訪問　10月 ・教育課程調査官　田村　学　氏の指導 （全学級　生活科・総合的な学習の時間公開と研究授業１年・５年） ・和歌山市教科等別研究会 10月（生活科２年） ・研究発表会 11月 （生活科　１年　　総合的な学習の時間４・６年） ・研究の振り返り ・研究集録作成 ・講師を招聘しての研修
平成22年度	・和歌山市・県教育委員会指導訪問　6月 ・他府県研究校との共同研究　6月 ・共同研究校（和歌山大学附属小学校）との共同研究 ・研究発表会　11月12日（金） 近畿地区生活科研究協議会　和歌山大会 各学年１公開授業 テーマ別３分科会 講演会（講師　調査官　田村　学　氏） 参加者　274名 ・研究の振り返り ・研究集録作成

２　研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究の重点

①各単元展開に当たり，その学習で育てたい力を明確にしていくことで，子どもの学びの見取りや子どもの変容をはかっていく。子どもの思いや願いを大切にしながら，各単元毎に「学習方法に関する力」・「かかわりに関する力」・「自分自身に関する力」を学級児童の実態に合わせ指導者が設定し学習を展開してきた。

②ゲストティーチャー等，地域人材を生かし

た単元構成と学習展開をより充実させていく。探究の過程で，問題解決のために子どもが必要とする場面で効果的にゲストティーチャーを招き，学習の深化や問題解決等につなげていく。さらに，ゲストティーチャーによる専門的な知識の伝達や具体的な指導を受けるだけでなく，その人柄や一つのことに打ち込む姿勢，その生き方に触れ，自分自身を見つめ自分の生き方を考えるという視点も大切にする。開かれた学校・学級であるとともに地域と連携して育つ学校や子どもとなるように努め，家庭・地域に発信しつつ広く教育的支援を求めていく。

③活動や体験を生かし主体的に学習をすすめ，共に学び合い考え合う授業研究を追究する。一人学習を大切にし，書くこと等により自分の考えを確かなものにし，主体的な学習に臨む構えを持つようにする。個の「調べ・追究する」をもとに集団で考え合う場を授業実践で大切にしていく。他者とあたたかくかかわりながら「話し合い」「聞き合い」のできるコミュニケーション能力を育む。

（２）具体的な取組

①　授業研究を通しての取組

授業研究とその分析を大切にしている。個の学習を大切にしながら年間を通し，それぞれの単元展開における研究が教師の力量を高めるものとしてだけでなく，子どもの育ちにつながることを意識して実践してきた。以下は，２年間で研究として取り組んだ子どもや地域に根ざし開発された単元の一部である。

第１学年

〇おじいちゃん･おばあちゃん だ～いすき！

〇学校ってどんなとこ　きらきらたんけんたい

〇カラーマジック大へんしん

第２学年

〇あっぱれ２風たんけんたい「むそたのまち」

〇ぼくもわたしも　ゆうびんやさん

〇もっと，とことん町たんけん「スイーツをめぐるぼうけん」

〇いさおひがしの町大好き「お弁当やさんへ行こう」

第３学年

〇３風　漬物探検隊～みんなでおいしい漬物を作ろう～

〇ぼくと私と千手川　～人！自然！千手川のお宝発見！～

〇３風クッキーやへいらっしゃい「市高デパートでお兄さんお姉さんの一員になりたいな」

第４学年

〇4 風貴志川線プロジェクト

〇わたしの町　千手川を見つめて

〇きらりと光る人との出会い

〇千手川　不思議　発見！？

第５学年

〇５年風組新聞社から発信しよう

〇学校の光（キラリ☆）わたしたちの町の光（キラリ☆）を探そう

〇六十谷の町・人を地震から守れ！

〇お米パワーをさぐろう

第６学年

〇わたしたちの町おこし

〇「元気」なまち“和歌山”をめざして

〇『農』と言える日本人　2010

② ゲストティーチャーに学ぶ取組

人から学ぶことを大切にしている。それは，専門的な知識や技術を教えていただくだけでなく，多くの大人に出会い，その人柄や願いに触れ，大人が大人として真剣に活動している姿から得るものが大きいと考えているからである。

③ 総合的な学習の時間の全体計画

（資料参照）

（３）考察及び成果と課題

○育てたい力を指導者が意識することで，指導と評価の一体化を図ることができた。

○マイカリキュラムを軸に展開することで，学級の独自性や教師の願いがより反映される反面，子どもたちの生活にかかわりの深い地域の千手川やマスコミ等にも多く取り上げられ話題性のあった貴志川線を対象とした学習で，学習内容の重複が見られた。また，各学級独自で児童の実態に合わせて「育てたい力」を設定したが，学級間でずれが生じ，学年間での調整が必要になった。学校として育てたい力の見直しを行うことができた。

○学習の展開に当たっては，教師のねらいと子どもの思いや願いにずれが生じる場合があった。教師の指導性と子どもの主体性をどう近づけていくかが課題である。

○多くの人材を招聘した結果，成果として指導者がゲストティーチャーによる学習展開に抵抗がなくなってきている。また，学校としても，今後の人材を確保することができた。

○人材を招聘する際には，学びの中での必然性が必要である。そのため学習の流れや子どもの関心や追究の方向を予測し，教師が準備しておくことも大切であるが，子どもの意識の流れや追究の方向性を予想し把握することは難しい。

○個々の思いを大切にし，集団で一つの課題を追究するためには，どのような学習課題を設定するかが重要になる。課題についての協議を深めることで，問題解決学習や課題について教師間の理解が深まった。

○書く活動や板書について重要性を再確認し，２年次には重点的に取り組むことができた。

本校が，本年度取り組んだのは次の点である。

☆疑問に対しては，必ずそれに対する自分の予想も書く。

☆見つけた事実だけでなく，思ったこと感じたことも書く。

☆キーワードを活用して書く。

不思議に思ったことは，　理由は，　証拠は，

予想だけど，　つまり，　たぶん，　等

☆書いたものをもとに個の考えを座席表に書き込み授業に生かしていく。

3　研究の成果と課題

研究成果の普及に関して，２年間で３回の研究発表会（平成 21 年 10・11 月の和歌山市の教科等別研修会において研究発表会・平成 22 年 11 月，近畿地区生活科研究協議会和歌山大会を兼ねた本指定の研究発表会）を開催し，授業実践を通して広く忌憚のない意見や批評をいただいた。また，実践に当たっては，生活科教育研究会等との連携を図り，事前の研究協議等の場で多くの他校の教員との共同ワークにより成果を広げてきた。

特に，平成 22 年度は，11 月 12 日（金）に

実践発表会（第 13 回近畿地区小学校生活科教育研究協議会和歌山大会を兼ねる）を開催し，和歌山県内のみならず広く近畿・全国の教員に研究の成果を報告し普及に努めることができた。

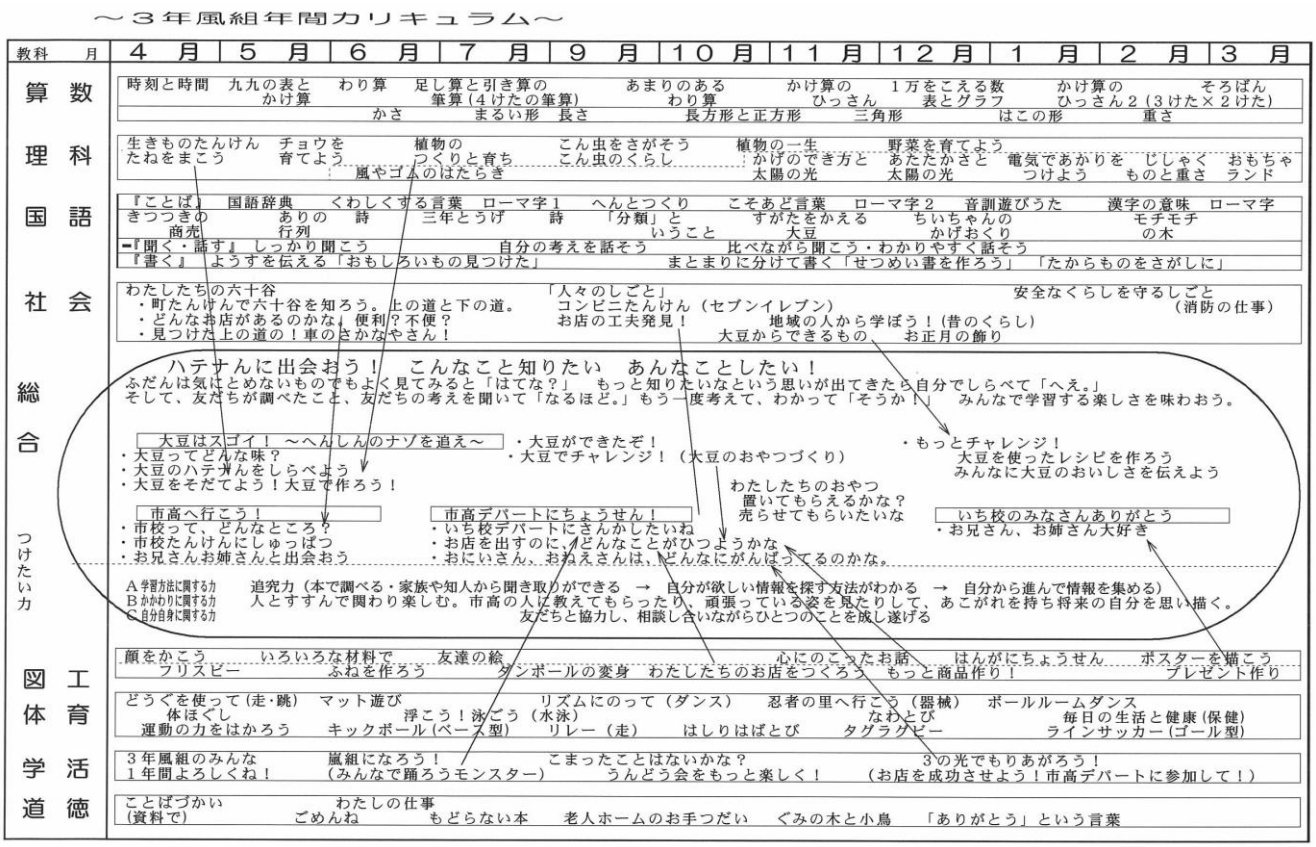
研究発表会では、要項に本校の取組や主題設定の理由等を提案し，平成 21 年度の研究成果等を参考資料として配付した。各学年の実践についてもパネル等に掲示し研究成果の普及に努めてきた。

また，生活科・総合的な学習の時間の本校との共同研究校である和歌山大学教育学部附属小学校とは，互いの発表会に向けて共同研究を行い協議している。さらに，本校と同じように研究を推進している他府県の教職員を招き共同授業研究を行うなど，他校の教職員とも連携しながら研究を深め広げることができた。

成果としては，各学級独自であった「育てたい力」について，学校として総合的な学習の時間の全体計画に取り入れていくことで，学年間の調整を図り，子どもの育ちを学校全体としてとらえ直す契機となった。また，開発実践した教材を問い直し，より効果的な活動や体験を取り入れる場を探ることができた。年度毎にその研究成果のまとめを作成し，配付していきたい。

今後、子どもの主体的な追究を支援するため，子どもの意識の流れを予想し，複線型の学習計画を準備し，子どもの動きに合わせて修正していくことを大切にしたい。また，教師の支援により，望ましい追究に近づけていくことが必要になる。本校教員の半数は，経験の少ない教職員である。ブロック・学年会で検討する中で，担任でないと分かりにくい子どもの思いや願いをどう見とっていき指導や支援に生かすかを伝えていきたい。

マイカリキュラム例



平成22年度　　総合的な学習の時間　　全体計画

和歌山市立有功東小学校

教育基本法
学習指導要領
県・市の教育方針

学校教育目標

人間尊重の精神を基調にして、広い視野と自ら学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる豊かな人間性を備えた子どもの育成をめざし、楽しく生き生きと学校生活を送ることを願っている。

地域の実態
児童の実態
保護者の願い
教職員の願い

めざす学校

みんなの合言葉「世界一素敵な学校を一緒につくっていこう」

・子どもたちが「学校に来てよかった。」「先生といっしょでよかった。」と思う、楽しくて充実感があり、温もりの感じられる学校
・学校にかかわる者一人ひとりに居場所のある学校
・児童、職員、保護者が個性を発揮し、生き生きと創意に満ちた勢いのある学校。
・やさしさや落ち着きのなかに自由さやしなやかさの雰囲気を持つ学校
・地域の人々に信頼され、かつ、愛され、地域と共に育つ学校

研究主題

子どもが自らの世界を拓く学習
―わたしが、主体的に学習をすすめ、共に学び合う学習をめざすなかで―

総合的な学習の時間の目標

子ども自身が、自分のめあてを持ち、それにむかって主体的な学習（活動）ができるような子どもを育てる。

【生活科】
具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもち、自立への基礎を養う。

【特別活動】
望ましい人間関係を育成し、自治の力を育てる。

総合的な学習で育てたい力

学習方法に関する力	自分自身に関する力	かかわりに関する力

自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する。
問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む。
自己の生き方を考えることができる。

【各教科】
知の総合を図る土台として、基礎基本の徹底を重視する。

【道徳】
自分と人・社会・自然との関わりを見つめ、よりよい自分をめざして実践していく態度を育てる。

【努力点】
・グループ活動や異年齢集団による学習など、　多様な学習
・ゲストティチャーなどによる指導体制の工夫
・体験的な学習や問題解決的な学習
・地域教材の積極的な活用
・全職員一体の指導体制の構築
・見通しを持ち弾力的な時間配当

【学年別テーマ例】
第3学年…わたしたちの六十谷・ふるさと発見
第4学年…くらし探検隊・人と自然にやさしく
第5学年…発信しよう　郷土の自慢・人に学ぶ
第6学年…見つけよう自分の生きかたを
　　世界一素敵な学校にするために
※本校では、学級独自の取り組みを重視し、マイカリキュラムによる実践を行っている

【指導案から】
・個が見えるか
・子どもに柔軟に対応できるか
・指導者の願いが見えるか
・評価の考えがわかるか

授業実践で大切にしたいこと

的	会	根	芽
子どもの共通課題	共通課題にいどむ一人ひとりの構え	「この子」の表現のもと	「この子」が自ら拓く機会となる方向や時

教職員一人ひとりのマイカリキュラムによる実践

・個と課題
・個と学習材
・個と発見
○単元構想
○授業構想
○子どもの育ち

学級経営

（子どもを探りながら、一人ひとりを生かそうとする教師の営み）
「世界一素敵な学校を一緒につくっていこうね。」

◎学習方法に関する力

中学年（３・４年生）
・事物事象に対して疑問(ハテナ)をもつ（課題発見）
・問題を解決するための見通しをもつ（見通し・計画）
・自分に必要な情報を選択し収集する　（情報収集）
・自分にあった方法で探究する　（課題解決）
・調べたことや考えたことを自分の言葉でまとめ伝える　（まとめ・表現）

高学年（５・６年）
・事物事象に対して追究に値する疑問（ハテナ）を見つけ出す　（課題発見）
・問題を解決するための見通しをもち学習計画を立てる　（見通し・計画）
・多様な情報から自分の目的に応じた情報を選択し収集活用する　（情報収集・分析）
・適切な方法で探究し考えを整理する　（課題解決）
・自分の思いや考えが相手に伝わるように場の状況に応じた表現方法を工夫する　（まとめ・表現）

◎自分自身に関する力

中学年（３・４年）
・興味関心をもち進んで学習する　（関心・意欲）
・収集・選択した情報を自分の生活に生かそうとする　（自己の生き方）
・取り組んだことをふり返り出来るようになった自分に気づく　（自己実現）

高学年（５・６年）
・目標を設定し、課題解決に向けて意欲的に学習する　（関心・意欲）
・収集・選択した情報を自分の生活に活用する　（自己の生き方）
・学びをもとになりたい自分や夢・あこがれをもつ　（自己実現）

◎かかわりに関する力

中学年（３・４年）
・他者の考えを受け入れる　（他者理解）
・話題の中心に気をつけて聞く　（コミュニケーション）
・相手を意識して話す　（コミュニケーション）
・調べたい人・もの・ことを見つける　（対象との関わり）
・地域への関心をもちよさに気づく　（対象との関わり）

高学年（５・６年）
・他者の考えを受け入れ協同して課題解決に向かう　（他者理解）
・話題の中心を理解して聞く　（コミュニケーション）
・的確に話す　（コミュニケーション）
・関心の対象を広げる・関わりを深める　（対象との関わり）
・人々の工夫や努力に気づき、地域・社会への関心を高める　（対象との関わり）